

# 平成24年度第1回「市長とランチでトーク」特別版

## 「市長とサマースクール」

- 開催日 平成24年7月24日（火）
- 内容
  - ・市議会議場 見学 9:20 ~ 9:40
  - ・宇都宮城址公園 見学 9:50 ~ 10:20
  - ・市役所3階特別会議室にて市長と懇談 10:40 ~ 11:40
- 出席者 <参加者> 小学生とその保護者 6組12名  
<市側> 市長

### ● 主な内容（抜粋）

#### 《道路の整備について》

児童： 僕が通っている小学校の近くの道路（国道408号線）は道幅が狭く、大きなトラックがすぐ近くを通るのでとても怖いです。バイパスの工事があまり進んでいないので、早く工事を進めてほしいです。

また、LRTは国道123号線の住宅街の近くに作ってほしいです。

最後に、「自転車のまち」を目指すなら、自転車の通行帯をもっとたくさん作ったほうがいいと思います。

市長： まず1つ目の質問ですが、408号線は、鬼怒川に沿って南北に走っている「テクノ通り」という道路です。ここは県が管轄する道路で平成25年度に完成予定です。また、そこに接続する道路も、近年中に完成予定で、歩道も整備されて安全に学校に通えるようになります。

2つ目のLRTについてですが、東側については、まず清原工業団地までを想定して具体的に検討しています。市民の皆様からの意見を踏まえながら進めていきたいので、いろいろなアイデアをいただきたいと思います。

3つ目の「自転車のまち」についてですが、20年前から「ジャパンカップ」というアジア最高峰の自転車レースが宇都宮市で開催されています。より多くの人に知ってもらうために、中心市街地の大通りで「クリテリウム」という周回レースを実施し、全国から注目されるようになりました。

現在、自転車がより走りやすい環境づくりを目指して、急ピッチで自転車専用の通行帯を作っていますが、広い道路にしか作れないのが現状です。狭い道だと車との接触の危険があるので、広い道から整備を進めています。時間はかかってしまいますが、順番に進めていきます。

### 《災害対策について》

児 童： 宇都宮市では、地震対策で強化していることはありますか。

市 長： 災害対策としては、川の増水対策としてハザードマップを作成しています。また、地震が起きた場合は、各地域に避難場所を整備したり、災害用に毛布や食料品などを備蓄したりしています。

避難所への避難については、避難する方々に負担がかからないよう、なるべく小さな単位で避難できるように考えていきたいと思ひます。

また、今回の地震では、避難所の案内がうまく出来なかつたり、家の窓が閉まつていて避難案内の放送が聞こえなかつたりしたこともあつたので、電話が不通の時でも連絡が取れる「MCA無線」を全消防団に配備しました。

これからも地震対策をきちんと行っていきたいと思ひます。

### 《郊外のお店やスーパーなどについて》

児 童： 郊外に住んでいる人は、近くにスーパーや大きなお店がないので、市の中心部まで車で行かなければならないのですが、とても不便なので、大きい施設やスーパーを作つてほしいです。

市 長： あいさつの中で話した「コンパクトシティ」をすすめていくにあたり、買い物をするところや病院などがなるべく家の周りに出来るよう取り組んでいきたいと思ひています。しかし、スーパーや病院は、市役所が直接作ることではできません。そうした施設は、人口が少ない地域だとなかなかできないので、市役所では、人口が減らないようにして、お店を作つてくれる会社をお願いをしていきたいと思ひます。

### 《市長から子どもたちへの質問》

市 長： 皆さんはどんな夢をもつていますか。

児 童： パン屋さんになりたいです。

児 童： 学校の先生になりたいです。

児 童： 世界の海を渡つて旅をして、世界中の人と友達になつて交流したいです。

### 《市政で一番力を入れていることについて》

保護者： 近年、一番力を入れている取組は何ですか。

市 長： 一番は教育です。日本は島国で資源が少ないので、人が大切な資源です。学力、道徳心を鍛えるため、宇都宮市では教育改革を進めてきました。特に学力の向上については、読書に力を入れています。全ての小中学校に司書を配置して、子どもたちの読書量を増やしています。宇都宮の子どもたちの読書量はトップクラスに入っています。そのほか、子どもたちの学習環境の向上や健康管理にも力を入れています。



市議会議場見学

懇談の様子

